

中国国防相の出席がハイライト

「アジア安全保障会議」に出席して

西原 正氏

(平和・安全保障研究所理事長、元防衛大学校長)



過去最大規模の会議

去る5月31日から6月2日までシンガポールで開催された「アジア安全保障会議」(シンガポール・ダイアログ)は、これまでになく規模の大きい会議であった。例年のように、会議では関連地域の14人の国防大臣が順にそれぞれの国の国防政策(20分程度)を紹介し、その後620人余りの学者、シンクタンク研究者、政府関係者、制服組、ジャーナリストなどの参加者が会場から質問をする形式を採っていた。ただ、ロシアの要人が誰も出席しなかったのは残念であった。

シヤナハン米国防長官代行がトップバッター

会議の参加者の規模をふくらませたのは、米中、米露の関係悪化や、米朝関係の行き詰まりなどが関心を高めたことや、中国の国防大臣が8年ぶりに出席したことが大きかったと思う。これまでの中国は人民解放軍副参謀長クラスを出しており、質疑応答のやり取りなど、パンチに欠けることがあった。

例年と同じく、今回も米国代表がトップバッターで、シヤナハン国防長官代行であったが、まだ国防長官としての議会承認を得ていなかったことで威信を誇示することができなかった。

はできなかった。しかし、それでも「米国は信頼に基づき、包括的で柔軟な安全保障のネットワークを構築し、自由で開かれたインド太平洋を支える」と力説して、「南シナ海などで中国は他国の主権を侵害すべきではない」と主張し、日豪などの同盟国や地域友好国との連携強化を進めるとした。さらに台湾の自衛力強化を支援することを強調して、台湾の独立を阻止する中国を牽制した。

反撃的な中国国防相

これに対して、翌朝の最初の講演者となった中国の国務委員兼国防部長(国防相)である魏鳳和(上将、前ロケット司令部員)氏は、終始語調を強めて威圧的な講演をした。

「南シナ海の島嶼は中国の領域であり、そこを守るの当然である」、「中国は南シナ海でだれにも脅威を与えていない」、「カンボジアに中国の軍事基地を置くことではない」、「中印国境は安定している」などと言いつつ、次いで「他国が台湾の分裂を図るべきではない」と述べた。

各国の国防相や軍幹部らを前に演説し、北朝鮮の非核化を実現するため国際社会の団結を呼び掛ける岩屋防衛相(6月1日、シンガポールのシャングリラホテルで) 防衛省提供



るのであれば、我々にはすべての犠牲を払って戦うという選択肢しかない」、「他国が中国を餌食にしたり、分裂させたりすることは許さない。対話したいのならば、ドアは開いている。戦いたいのならば、最後まで戦う。準備はできている」などと反撃的な表現で応じた。

北の非核化で熱弁ふるった岩屋防衛相

最初のシヤナハン国防長官代行の後、岩屋防衛大臣が韓国の鄭景斗防衛大臣とEUのモグერიニ外交安保政策上級代表とともに登壇し、日本の防衛政策について聞き取りやすい英語で講演した。

北朝鮮の非核化の完全履行のためには、抑止力としての米国のプレゼンスとともに、国際社会の団結などが重要であると説いた。そして「北朝鮮が正しい道を歩めば日本は助力を惜しまない」と述べた。しかし、北朝鮮の非核化の行き詰まりから、北朝鮮の非核化を重視した日韓の発言に対する会場の関心は驚くほど低かった。

ベトナムとフィリピンは国防大臣の講演に対して、私は、両国は米国の「航行の自由」作戦をもっと明示的に支持すべきではないかと質問した。それに対して、フィリピンのロレンザナ国防大臣は「自分たちは支持している」と弁解していた。実際にはドゥテルテ大統領が表立った中国批判を控えているため、「航行の自由」作戦支持の声は明確に聞こえてこない。政府と国軍との立場の違いを示すこうしたASEAN側の事情が米国の行動を制約している。

深化する英仏の関与

これ以外に、英仏の国防大臣がいずれもインド太平洋地域の動向に強い関心を示したのは興味深かった。

両国はいずれも南シナ海の航行の自由を確保することの重要性を強調した。その上で、英国はこれまでほとんど注目されなかった5カ国防衛協定(参加国は英国、マレーシア、シンガポール、オーストラリア、ニュージーランド、1971年発足)の重要性に何度か言及した。

また、フランスは南太平洋の自国領であるポリネシアやニューカレドニアなどの「主権」に言及した。いずれも間接的に中国の東南アジアや南太平洋への進出に対する警戒を示していた。この会議は何かを決議するのではなく、関係国の国防相がそれぞれの国防政策や考えを披瀝し、参加者やメディアと対話し、宣伝することを目指している。その点ではシンガポール・ダイアログは大いに成功していると言える。

シンガポールのチャンギ地区で開催された「IMD EXASIA2019」に参加するため、チャンギ海軍基地に寄港した海自ヘリ搭載護衛艦「いずも」を視察する同国の国防相(中央)とエスコートする山村海幕長(その右)、江川宏1護群司令(同左) 5月14日IMDEXアジアのホームページから

アジア安全保障会議のシンポジウムで「安全保障協力の新たなパターン」をテーマにスピーチする山崎統幕長(右から3人目) = 6月1日、シンガポールのシャングリラホテルで

